

## 皆さんそんなに几帳面でしたか？

先日、今の中国らしい出来事に遭遇したので少しご紹介します。週末のお昼に自宅で食事を作ろうと思い、自分の携帯に入れている日用品買い物アプリで野菜を買おうとしたところ、キュウリが1キロ・5元（日本円で約110円）、ニンジンが600グラム・3元（日本円で約60円強）で売っていました。値段の安さもさることながら、購入する商品を選択して決済ボタンをクリックすると、自動的に中国お馴染みのアリペイやWechatといった決済アプリに移動し、決済方法を選択して支払いを済ませれば、五分とかからず買い物が終了します。商品は配達員が自宅ドアまで届けてくれるうえ、携帯の画面には地図アプリで配達員の位置情報と予想配達時間が表示されるので、こちらは画面で配送状況を見ながら食事の準備ができます。

商品が届いて食事の準備をしていると、携帯アプリにメッセージが届いたので画面を見てみると、なんと配達されたキュウリの重さが163グラム、ニンジンが26グラム、当初の画面表示の重量より軽いということで決済アプリに返金されたうえ、次回の買い物で使える特典チケットが送られているのです。日本の感覚でいうと、スーパーで買い物をした時にお釣りを返してもらう感覚に似ていますが、1グラム単位まで表示重量との差額を返金してもらえとは、「皆さんそんなに几帳面でしたか？」と今の中国のデジタル社会ぶりに思わず感心してしまいました。因みに、自分が受け取った商品に傷があった場合は、中国の法律でも7日以内に返品、交換等ができますので、携帯で商品の写真を撮影してアプリにアップロードするとすぐに新しい商品を届けてくれるので、アフターサービスも行き届いています。

もっとも、14億人の中国人全員が買い物アプリを使って毎日の食材を買っているわけではありません。私のマンションから歩いて5分ほど行った路地には比較的大きい食料品市場があり、そこでは、昔ながらの中国での買い物の風景を見ることができます。例えば、ニンジンを買う際にも、お店の人とおしゃべりをしながら1本単位で買うことができ、ついでに玉ねぎを合わせて買うと、お店の人から薬味の細ねぎをサービスしてもらおうといった具合です。こういった食料品市場は、上海市市街の中でも外国人が住む地域では少なくなっていますが、地元の中国人の人達が住む地域では今も多く残っています。土曜日の午前中などに、多くの年配の人達がビニール袋に野菜を詰めて歩いている姿を見かけると、たいてい近くに食料品市場があります。

中国でこれだけ買い物アプリが普及しサービスも充実しているのは、実際には配達員の安い人件費に支えられているという背景事情がありますが、中国の今のデジタル社会と昔の懐かしい風景を同時に垣間見ることができるのはとても興味深いです。

以上

具体的な事案に関するお問い合わせ ☒ メールアドレス：[info\\_china@ohebashi.com](mailto:info_china@ohebashi.com)

本ニュースレターの発行元は弁護士法人大江橋法律事務所です。弁護士法人大江橋法律事務所は、1981年に設立された日本の総合法律事務所です。東京、大阪、名古屋、海外は上海にオフィスを構えており、主に企業法務を中心とした法的サービスを提供しております。本ニュースレターの内容は、一般的な情報提供に止まるものであり、個別具体的なケースに関する法的アドバイスを想定したものではありません。本ニュースレターの内容につきましては、一切の責任を負わないものとさせていただきます。法律・裁判例に関する情報及びその対応等については本ニュースレターのみには掲載されるべきでなく、必要に応じて別途弁護士のアドバイスをお受け頂ければと存じます。